

【オリコンサル・焼津市・名古屋工大 統合型公共施設 DB を構築  
管理など戦略的に推進 産学官共同研究で成果】

# 統合型公共施設DBを構築

## 管理など戦略的に推進

### 産学官共同研究で成果

オリコンサル・  
焼津市・名古屋工大



オリコンサル代表取締役社長 野崎秀則（左）と焼津市長 佐藤大輔（右）が握手を交わしている。背景には「統合型公共施設データベース構築に関する産学官共同研究」のロゴが並んでいる。

オリコンサル代表取締役社長 野崎秀則（左）と焼津市長 佐藤大輔（右）が握手を交わしている。背景には「統合型公共施設データベース構築に関する産学官共同研究」のロゴが並んでいる。

オリコンサルは、静岡県焼津市、名古屋工業大学と共同で、「統合型公共施設データベース」を開発した。将来のまちづくりや、公共施設等の管理および国土強靱化を戦略的に推進するツールとなるもので、焼津市が保有している公共施設等の総合的な計画的な管理を推進するため、産学官共同研究を進めてきた。同データベースの構築は、全国の自治体で初となるもので、構築によって公共施設等の事業管理、国土強靱化につなげていく。

野崎社長は、「統合型公共施設データベース」の構築は、公共施設等の総合管理計画の策定支援、公共施設（インフラ、建物）のメンテナンスサイクルにおける維持修繕のスケジュール、履歴などの情報の一元管理、公営システムと連携した固定資産台帳などの行政サービスが展開で

できることなどによって、市が管理する公共施設の総量把握が容易になるのをはじめ、キーワード検索やエリアによる絞り込み検索ができる。また、複数施設の中長期の維持管理費用を同時にグラフで表示できるなど、すべての公共施設のライフサイクルコストの見える化が可能となっている。スケジュール機能によって、部署を横断して同一路線の関連工事情報を共有することなどにより、工事の時期や作業工程の調整を効率的に行うことができる。

これにより、公共施設等総合管理計画の策定支援、公共施設（インフラ、建物）のメンテナンスサイクルにおける維持修繕のスケジュール、履歴などの情報の一元管理、公営システムと連携した固定資産台帳などの行政サービスが展開で

た。野崎社長は、「統合型公共施設データベース」は、全国の自治体が抱えている課題を解決する有効な手段となる」と述べている。